

アマダイ通信NO. 91b

(Tile fish network letter)

2012年 入道雲に百日紅

知人・友人各位

先の総選挙で民主党が政権につき「二大政党制」が実現、次は自民党も割れ、民主党も割れて保守とリベラルに大括りできないかと期待したが、先に民主党が分裂。大阪維新の会は病院に逃げ込んで首相の座を投げ出した安倍元総理を党首に担ぐとか、石原新党とくつつくとか、馬脚が現れたはいいが、リングに上がった主な選手が保守ばかりではつまらない。政治は国民レベルの反映とはいえ、国民が皆、保守ばかりという訳でもあるまい。ここで自民も民主も保守は「維新」に走って貰って、リベラルは一つになると、分かりやすすくないか？そしてサルコジの後にはオランダが登場するというように！

◎二重権力・・・終わりの始まり

中東の民主化革命がシリアにまで波及、二重権力状態になりつつある。首都ダマスカスで会議中の国防相らが爆殺され、首相まで寝返って亡命、反体制派に加わる。ダマスカスでも市街戦が始まり、第二の都市アレッポでの激しい攻防も続く。終わりの始まり。「二重権力状態の創出！」は学生時代の「革命党派」のスローガンだったが、若き「革命家」の夢がテレビの向こうで現実になる。5、6年前、シリアを旅した時、至る所にアサド大統領の大きな肖像画が掲げられ、火砲を積む車両が街中を走り回るのに、首都の小さな国際空港の待合室の座席シートが破れてスポンジが剥き出しになっているのを見て、この独裁政権がいつまで続くのかと思ったが、意外と早く幕引きが訪れた。

かつて旅したチュニジアから始まった「アラブの春」だが、遠くは70年代のパーレビ王朝を倒したイラン革命に遡る。オスマントルコが隆盛を誇り、中東は勿論、北アフリカ、中・南欧もイスラムが支配した時、イスラムは絶頂期を迎えた。大航海時代に入り、レコンキスタに勝利しイスラムを追放したポルトガル、そしてスペイン、オランダが南米、アフリカの新大陸、アジアの新天地との交易で富を蓄積、国力を付けるとイスラムは斜陽に。産業革命にも乗り遅れ没落。自由と民主主義の旗印の下、国民国家へと脱皮、いち早く産業革命で国力を伸長した英、仏の植民地や従属国となり、宗教的にも抑圧される。

インドネシアでも、チベットでもそうだが政治的自由・独立を求める運動が宗教運動の形で主導される時、先ずは宗教国家の樹立として実現する。イランが然り、エジプトでもイスラム同胞団と軍の綱引きが続く。多分軍でもなくイスラムでもない、次のステージの社会と政治、経済の仕組みが続く筈だ。いつまで時間がかかるか分からないが、中東が蔑まれ、虐げられた歴史の長さに比べれば大した時間ではないだろう。

◎革命無罪・・・「革命家」はヤクザより格上！？

夏の盛りのゴルフ帰り、大泉ジャンクションで関越道から外環道に抜ける時、強引に割り込む黒塗りの大型ベンツ。入れてやらなかったら、いつまでも後ろにピッタリくっついて来る。バックミラーを見るとスモークガラス越しにスキンヘッドの、怖そうなお兄さん。

ヤクザかも知れない、ヤバイと思ひ3、4度追い越し車線から走行車線に変わるが、その都度わざわざ車線変更してピッタリ後ろについて来る。本当にヤバイ！

その時、●は駒場の時に7回も警察に捕まり下手なチンピラより「キャリア」が上、未決とは言え足掛け3年中野刑務所に入っている。半端なヤクザより長くムシヨ暮らしをしていると、変な自信が湧いて来る。一身を犠牲にして、世の中を良くしようと頑張っている。しかも粗暴犯と違い知能犯だと、留置場ではヤクザにも一目置かれた。ヤクザより格上だ！恐れることはない！幸い戸田西の出口と美女木のジャンクションが5百m間隔で続く。近過ぎて●も時々美女木で出るのが忘れ、三郷まで大回りする。追越車線に出て、美女木JCTギリギリ手前で走行車線をゆっくり走るトラックの前に出て、左にハンドルを切り首都高に入る。黒塗りの大型ベントは脇を高速で走り抜ける。知能犯の勝利！？

留置場の中でも序列があり、学生運動の活動家は最上位にランクされる。私益を顧みず、頭を使い世の中を良くしようと頑張っていると。頭を使うという意味では詐欺や背任、横領犯だが、自らの利益を計るということでワンランク落ちる。真ん中が窃盗、こそ泥だ。同じ盗みでも、暴行・脅迫を加えて他人の物を盗る強盗や暴行・脅迫を加えて性的行為を強制する強姦は粗暴犯として、ワンランク落ちる。一番可哀想なのが強姦未遂で、留置場や刑務所でも駄目な奴と蔑まれる。日曜夕方の人気番組、笑点でいえば、強姦未遂は座布団なし、強盗、強姦は座布団一枚、窃盗は座布団二枚、詐欺、横領は三枚、革命運動は四枚ということだが、革命運動が成功すれば国家は転覆、革命は無罪となるので、犯罪となるのは革命未遂のみ。革命未遂犯が座布団四枚ということになる。

革命未遂犯として、国家反逆罪で断罪されるのか？革命に勝利して次の国家権力を組織、革命無罪として正義の英雄になるのか？リビアでカダフィを処刑したように、大量虐殺・反革命の罪で旧体制を断罪出来るか？生きるか？死ぬか？の死闘がシリアで展開される。革命家になり損ねた●は、革命はベンチャービジネスに通じる、成功する確率は千に三つ、社会に貢献するという点で共通だ！？と敢えて新しいビジネスに挑む。日本革命の芽は消え、世界革命の旅に出るゲバラの能力と若さはおかつの「革命未遂犯」にはない。若い時に友人と学習塾と学習教材会社をそれぞれ起業、軌道に乗せたが、40歳でどうしても一度サラリーマンを経験してみたくなり、友人に譲った。10年間サラリーマンをした後、知人に誘われ環境ビジネスの創業に参画したが、半年で幕引き、路頭に迷う。50歳過ぎて又、サラリーマンを始めるのも辛い、窮余の策で営業コンサルタントを開業、学生時代以来の顔の広さ、ネットワークの厚みが功を奏して、どうにかこれまで糊口を凌いでいる。ネットワークの広さを見込まれ、新しいビジネスの話が色々持ち込まれるのはありがたい。その中からニュービジネスが幾つか花開き、社会に貢献出来ると嬉しい。併せてボランティア活動や若い学生・留学生諸君の国際的な交流の場作り等で、得たものを還元できると更に嬉しい。

◎術前のトレーニングが術後の経過を良くする！？

旧七帝大の同窓会、学士会の会報895号の帯津三敬病院・帯津先生の「星雲はるかに・・・帯津三敬病院の窓から」という連載に、進行した中咽頭がんから見事生還したHさんの話が載る。

早期がんではない上に根治手術の難しい部位。術後の嚥下機能の温存にも少なからず難のある手術。見通しの立たない状況だ。その難局を見事に乗りきった要因はいずれにあるか？まずは手術後の体力低下を最小限にすべく、術前にランニング、スクワットなどに精を出したことだ。なかなか思いつかない。私なども手術前に「サプリメントを服用して体力をつけておいた方がいいでしょうか」と患者さんに問われても、「いや、いまは余計なことを考えずに手術に集中して下さい」と言うのが常だった。術前のトレーニングが術後の経過を良くしたことは十分に考えられると、帯津先生。

意図的にトレーニングするかは別にして、がんを告知される、まして完治困難ながんであれば、平静でいられなくなり、それ自体が気力、体力を落とす原因になる。術後の体力向上のために術前から運動するというのは珍しいのであろう。医師にしてもそういう意識はないのである。先日も友人から「いとこががんになったのだが、体験者のあんたならどう言葉をかける？」と問いかけがあった。傍で見ていて気の毒なくらい落ち込み、慰めの言葉もみつからず、アドバイスを求めて来たのだろう。先のある若い方なら気の毒だが、同世代であれば一般的には家庭を持ち、子供も一人立ち、仕事も勤め上げ、人生双六の上がりの時期。人はいずれ死ぬ。死が避けられぬものとすれば、潔く如何に人生の残りの時間を有意義に使うか？残りの人生を充実したものにするか、ポジティブに考えたい。がん如きにかかりきりになるのは、残りの時間が勿体ない。

今考えると不思議だが、●の体内では大腸の表皮で分裂を繰り返し増殖したがん細胞が、リンパ液でリンパ腺に運ばれ周囲のリンパ腺三ヶ所を新たな拠点に更なる増殖を謀り、「自爆テロ計画」を着実に進めていた。保健所の消化器がん検診で「便潜血検査陽性です。精密検査を！」と言われた時も、こんなに元気なのに何かの間違いだらうとほったらかしにしていた時も、宿主と共に自らも死んでしまうがん細胞の「自爆テロ計画」は進んでいた。内視鏡検査で大腸がんが発見された時も、現況に対する認識と将来を予測する知識を持たぬが故に、リンパ腺という他臓器へがんが転移している「ほとんど治癒する見込みのない『大腸がんステージⅢb』」（岩波新書「胃がんと大腸がん」）とはつゆ知らず、「こんなに元気なだから悪い所を取れば治る」と、訳もなく思い込む。だから「術後の体力低下を最小限にすべく」などという目的意識はなく、入院直前まで普通に仕事をし、夜毎盃を重ね、週末はスキーやゴルフを楽しむ。見えないものは存在しない。解決不可能なことは考えても無駄。若い時に世界革命！などと大言壮語した反動か？知らぬが仏の能天気。

術後の体力低下を最小限にすべく、術前にスキーやゴルフに励むということだったら、果たしてどうだったか？どこかで劇的な転換はある筈だが、今日の延長に明日はあり、明日の延長上に明後日がある。こんなに元気だから、医者が言うように、悪いところを取り除けば、又、元気な明日が続く。「『大腸がんステージⅢb』って何ですか？」と聞いても「ほとんど治癒する見込みのない」がんだなどとは決して口を割らず、がんの転移したリンパ腺をきれいさっぱり切り取ってくれた、お茶の水駅前の東京都教職員共済組合三楽病院の院長で大学後輩の主治医、阿川先生と関係者の皆さんに深く感謝しなければいけない。手術の渦中で治癒する見込みのないがんだと言われたら、持ち前の能天気を貫き通すことが、軟弱で水っぽく、一晚干さなければ旨味の出ない●に、果たして出来ただろうか？

◎この夏水を得て甘鯛に変身！？

人生の初めと終わりは海で遊びたい！元素潜り少年は通年のゴルフと冬のスキーの他に夏はスキューバダイビングをと思い、ライセンスを取ろうと講習を申し込むが、65歳以上は医師の診断書が必要という。腕を左右動かすゴルフの時は問題ないが、左手を上下動すると左肩が少し痛いし、左手に多少痺れも感じ、近くの整形外科へ。血圧を計り、心臓が一番問題だと心電図を録り、手の痺れは首からかも知れないと、首のレントゲンを二枚撮る。血圧は140と90で下が少し高いが、心臓は問題無しでスキューバ講習はオーケー。首は頸椎が少し潰れて前に出、それが痺れの原因、炎症が治まれば痺れも消えると、消炎鎮痛剤をくれる。これで●は巣潜り少年からスキューバ爺に変身出来る！先ずは7月の金曜日夕方、池袋のスキューバ用品店の片隅で学科講習。付け焼き刃で少しは勉強した積もりが、最後のテスト50問中正解37問で不合格？翌日は次のステージのプール講習があるので、1点下駄を履かせて貰いどうにか合格。隣の若い男の子はどんどん正解を出して行くので焦る。換算表を使って体に残った窒素の量と潜水深度から、残りの潜水可能時間を計算する問題が全く解らず、久しぶりに劣等生の悲哀を味わう。

翌土曜日は青山のスポーツクラブでプール講習。素潜りの時の癖が出てパニックに陥る。素潜りでは息を詰めて一気に海底へ。サザエを掴み、アワビを剥がし、海底を蹴って急浮上、海面に顔出し、一呼吸してニッコリ。ところがスキューバでは息は詰めず、くわえたマウスピースを通して背負ったボンベから空気が流れ込み、楽々呼吸。急浮上は肺が急膨張して傷つき命に関わると、圧平衡しながらゆっくり浮上する。マウスピースが外れた緊急時想定の実習で、素潜りの感覚で思わず息を詰め急浮上、何度かやり直し。足に慣れぬヒレを付け、4時間プールで潜ったり浮上したりはかなりの運動量。

翌週末伊豆で潜水実習。電車とバスで西伊豆大瀬崎のスキューバ銀座へ。先ずは屋上バーベキューパーティで生ビール飲み、ボタンキュー。大部屋で雑魚寝。翌朝20キロのボンベを背中に海中へ。秋になると水が澄んできれいですよ！と言われるが、梅雨の伊豆の海は視界が悪く、秋田の海と同じ感じでカラフルとは言えず。ただ秋田の海では見慣れない魚を何種類か見る。早く南国の青く澄んだ綺麗な海と白い珊瑚礁、色とりどりの魚達に出会えればと思いながら、素潜り名人は大苦戦。素潜りでは息を詰め、獲物目指し水中を一気に急降下、アワビを岩から剥がし、サザエを手掴み、急浮上。スキューバでは酸素の補給を受けてゆっくり下降、ゆっくり浮上。基本動作が真逆で中々上手く行かない。1メートルほど下降する度にマスクの外から鼻を摘まんで、涙をかむ要領でシュンと鼻から息を出して圧平衡をしようと言われても、その必要が理解出来ず上手くいかない。急浮上すると十メートルで水圧が半分に、肺の中の空気が二倍になり、下手すると肺が破裂しますよ！と言われるが、水底を蹴ってでも急浮上しようとする。6人中一人だけ水中で補講を受ける。又も劣等生の悲哀。お情けで？ライセンスはどうにか頂く。

5mや10mは潜ってアワビやサザエを獲り、銚子でアイナメを追いかけた少年●は甘鯛に成り切っていたのだろうか？地上で大気中に20%含まれる酸素を肺で吸い込み生きる人間。海水にわずかに溶け込む酸素を鰓に掛け流し捉まえ生きる魚。酸素を取込む能力の差をボンベで補い、空気(酸素ではない)を水中に持込むことで人間が魚に化けるスキューバ！少年●はどうして蛸のようにアワビやサザエを獲り、鮫のようにアイナメを追いかけ回すことが出来たのだろうか？水中を急降下しても水圧で鼓膜が破れることもなく、急浮上しても減圧で肺が傷つかなかったのだろうか？

◎日本・シンガポールの関係、シンガポールの目指すもの・・・

東大三鷹クラブ第104回定例懇談会のご案内

9月13日の三鷹クラブ定例懇談会は、シンガポール共和国大使館一等書記官の鄭祖糝(テーチャーシェン; Tay Chor Shen 2003年入寮 理Iから工学部電子工学科卒業)さんに講演をお願いしています。鄭さんが、当方の本社工場(尼崎)に私を訪ねてきたのは、今年の3月の末。シンガポール大使館と私とは随分以前から交流があり、特に本国の経済開発庁(EDB: Economic Development Board)の要人が、航空機関係、マイクロ・ナノ、水環境ビジネス等の関係で、定期的に当社を訪ねて来られました。鄭さんの訪問は、日本に赴任して間もない時期のことでしたが、まず、その完璧な日本語に圧倒されました。並みの日本人では太刀打ちできないような流暢さでした。話が進むにつれ、東大で勉強したこと、三鷹の寮(国際学生宿舎)にいたことなど、次々に話が弾み、日本語を自由に操る鄭さんに納得が行ったものでした。鄭さんの大使館の先輩も東大で勉強しており、4年ほど前に初めて会った際には日本人かと思ったほどでした。今年2月にシンガポール・エアショーを訪問した際にミーティングを主宰したEDBの幹部も東大経済学部で伊藤元重先生のゼミで勉強したそうです。そのような経緯で今回、鄭さんのお話を聞く運びになったわけです。

シンガポールは、1980年代に航空宇宙産業創出の大方針を出して、大学における航空宇宙技術者の育成・強化をはじめとして種々のインフラを構築しました。そのお蔭で最近では、英国の航空機用ジェットエンジンメーカーのロールスロイスが英国外で初めて、シンガポールに巨大な工場を建設し、2月にオープンしました。アジアでは必ずしも人件費が安い国ではないにもかかわらず、技術レベルの高さと、地政学的な利便性に注目してこの決定となったそうです。最近、シンガポールの水ビジネスへの力の入れようが話題になっています。水の自給を目指すために日本を始めとする水ビジネスに関わる企業を各国から誘致するための基盤を着々と整えています。

事ほど左様に、540万人ほどの国民のトップに立つ人が、国の将来を見据え、戦略的にトップダウンで方針を定め、実行に移しているように見えます。わが国の現状と比べると彼我の差があまりにも大きいように思えます。シンガポールは、歴史的に欧米との関係が深く、その利点を生かして、欧米とアジアの接点となるべく積極的な行動を起こしています。日本にも一緒にやりませんか、と、声をかけて来ています。私から見れば、日本こそ、明治維新以来欧米との関係を深める一方、はるか以前からアジアの国々との関係は強いものがあり、欧米とアジアの架け橋となるべき位置にいと随分以前から感じて来ました。アジアの国であると同時に、欧米と深い関係を打ち立てたという共通の歴史を持つシンガポールと日本が、今後どのように進んで行くべきかという観点も含めて、鄭さんのお話を楽しみにしています。(昭和40年入寮 住友精密工業(株)相談役(前社長)神永 晋)

日時：平成24年9月13日(木) 18時30分～21時

場所：学士会館本館203号室(千代田区神田錦町3-28) TEL 03-3292-5931

講師：鄭祖糝氏(テーチャーシェン; Tay Chor Shen) (2003年理科I類入学・電子工学科卒)

会費：5000円(会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み)

申込先：平賀・干場 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182

(有)ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

二次会：別途 近くの中国料理店SANKOUENで、講師参加で行います。

◎本郷のちゃんこ屋で・・・「国際学生宿舎生」のネットワーク形成に第一歩！

94年入寮の神戸の久米弁護士から、仕事で上京するので、会いたいと電話。ついでに同期の連中で飲もうと若い諸君と5人、本郷赤門前の浅瀬川でちゃんこ鍋を囲む。日弁連の民暴対策委員会で上京した久米君、たまにSPがつくこともあるという。国立劇場の西沢君や、三井物産でブルネイのガス化学の工場を担当する高取君、脂が乗って仕事が面白そうだが、社会人になって間もないころ、🐟事務所でコンパした時、前橋の営業所にいた東電の宮崎君は大変そうだ。三十代半ば、産官学の中核で活躍する年頃。役所では本省の課長補佐、40歳過ぎればそろそろ課長。これを出発点に若者組の寮のネットワークを広げようと、🐟事務所や寮で一緒に飲み、菅や鳩山兄弟を駒場祭や五月祭に呼び話して貰った、仲間の話題で盛り上がる。

タイの王族につながるアピ君はチュラロンコン大学教授。部屋に閉じ籠り勝ちだった岡本君も三井物産、八木君も弁護士。検察官になった西連寺君は赤レンガの法務本省でエリートコースを歩み、東電の事故処理委員会の事務局をやっている。一年上の経産省の曳野君は資源エネルギー庁で東電を担当、忙しくて今回来れなかった。イベントでいつも女装していた山本君はゲームのDeNAにいる。東京海上アセットマネジメントの杉本君は辞めて諸国放浪中に上海で金を盗られてSOS、送金するのに苦労したが、今どこにいるんだろう？経済企画庁に入った平井君は内閣府に変わって、連合に出向中。有井君は小学館で雑誌を編集、森井君はP&Gにいる。同じ外資でもフランスのエリート校に留学、フランスの国営化学会社に入った横田君は26才で日本法人の阿南化成の技術部長で帰国、いかにも階級社会のフランスらしい。新大阪駅的美々卵で久米君と横田君にご馳走した時に、🐟と同期の高見君の緑の地球ネットワークで働いている、寮同期の会田柏崎市長のお嬢さんも同席させたら、思惑通りに恋に落ち、子供ももうけて今は上海に暮らす。関空で横田君とバッタリ会ったらお互い、お前どうしてここにいるんだ？となって笑ってしまったと久米君。

翌金曜夜はベンチャーファンド、ナレッジカンパニー社長の勝部君（S43年入寮）の原宿の豪邸の五階屋上で納涼バーベキューパーティー。前夜ちゃんこ鍋を囲んだ94年の高取君が、同期の独立系ソフトハウス、インタアクトの青山君と93年入寮の東電の板清君を誘い、ちゃんこの後で赤門の近くで会った3年生石田君と揚々も合流。99年入寮で北京の人民大学大学院に留学、北京の大学の教員の職を得た津田君も、東進スクールの永瀬社長（S43年入寮）の株ナガセから出版した中国語教本二巻を携えて参加。18歳の一年生から65歳のロートルまで、留学生も交え30人ほどが、🐟が持参した08年シドニーからの交換留学生サラ・オレインがユニバーサルミュージックから発売したCDをBGMに、時間の経つのも忘れ語りあう。毎度のことながら、勝部夫妻とナレッジカンパニーのスタッフには大変お世話になる。

翌週、昨年脳梗塞で倒れたミサワホーム時代の同僚から、一度は仕事に復帰したが一年経って後頭部のハリと耳鳴りが酷く仕事を休んでいる、いい医者知らないかと相談。大学後輩の阿川主治医が院長になった三楽病院に一緒するが、脳外科がないから駄目と言われ、寮同室の三鷹野村病院長の須藤先輩に電話。うちの脳外科はリハビリだよと言いながらも院長が診察することに。先輩の専門は心臓外科だが、この春まで三鷹の杏林大学病院の心臓外科の主任教授だったので、駄目なら杏林の脳外科に振ってくれるだろうと、一安心

三鷹クラブは文Ⅰの弁護士から理Ⅲの医師まで、全てのソリューションが揃う素敵なネットワーク。留学生を含めグローバル展開、社会のためのグローバルソーシャルネットワークに育つと嬉しい。利害関係の絡まない学生時代のネットワークを「国際学生宿舎」世代にも広げ、同窓生と社会のために役立てる、そのための小さな一歩になればと思う。「一人は万人のために！万人は一人のために！」と「世界革命」を叫んだ若き日さながらに！

◎スリランカ紀行（JTB 旅物語「初めてのスリランカ六日間」11. 9. 17日～）(続)

③戦火治まり、開発始まる

紀元前 5 世紀に樹立されたスリランカ最初の王朝と同じ名前の古都アヌラダプーラへ、5 時間の旅をバスは走る。日曜日で町々の街道沿いの市場は、一週間分の買物をする人達で賑わう。ガイドのディディさんがちょっとトイレ休憩をと、横丁にそれて細い路地をたどり着いた先は彼の姉さんの家。大学の英語学の教授で、数年前イギリス遊学中に亡くなり、一人娘のお嬢さんはオーストラリアに留学、彼の地の銀行で働く。そんな上流階級の家庭でトイレを使わせて貰い、紅茶を頂く。広い応接間には堅型ピアノが置かれ、ダイニングキッチン他にキッチンがあり、寝室は 3 室ある。芝生の広い前庭の他にマンゴーやグアバなどの南国のフルーツがたわわに実る、果樹園さながらの裏庭。その果樹の下で、手作りクッキーと本場の紅茶を頂く。

黒光りする肌の持ち主で鋭く大きな目を持つガイドのディディさんは、同年代で 2. 5% しかない大学卒、名門コロombo 大学出身の秀才。経済学と会計学を学び銀行に職を求めたが、地方出身でコネのない彼は銀行に日参するが果たせない。旅行に来た名古屋の先生、西村さんと知り合い、彼の援助で来日。アルバイトしながら日本語学校で学び、帰国してガイド養成学校で勉強、資格を取る。しかし、内戦が激化、日本からの客は途絶え、やむなく又、日本へ。横浜の居酒屋つば八で人気店長となり、日本語に研きかけたという。

名門大学で学んだ者もキャリアを活かせず、海外で学んだ若者が自国で才能を發揮できない。国民にとっても国家にとっても大きな損失。内戦がようやく終結、30 年間の経済の停滞を取り戻さなければならない時、人材不足は深刻な問題。コロombo から海岸線を北上、入江の町プッタラマから北東に進路を取り内陸アヌラダプーラに向かう A 2 は幹線国道。各所で片側 2 車線への恰幅工事が進む。インフラが整備されれば投資も進み、常夏の美しい海岸線や、世界遺産に指定された内陸の豊富な史跡や宗教遺跡は、世界中から人を呼べる。経済のグローバル化が進む中で、工業化が進めば、農村の余剰労働力の都市への集中、農業の大規模化、機械化などが否応なしに進むだろう。その時、人材は足りるのか？

朝 7 時半にコロombo を出発したバスは、紀元前 4 世紀頃に出来たスリランカ最古の都アヌラダプーラに着き、カリーの昼食。辛い食事に地ビールのライオンビールが美味しい。トイレ休憩のドライブインで 50 ルピー(1 ルピー 1.3 円)のトイレチップを払うのを嫌い、レストランの客となるために飲んだカールスバーグ大瓶が 350 ルピー。軽いカールスバーグよりカリーに合うライオンビール大瓶が 400 スリランカルピー。食後世界遺産アヌラダプーラ見学。アショカ王の王子マヒンダによってインドから初めてスリランカに仏教が伝えられ、当時分枝から移植されたスリーマハーの菩提樹は、未だに青々と茂る。白いドームに尖塔が美しく聳え、仏舎利を祀るルワンウエリゼーヤ仏塔と共に参拝者が絶えない。あちこちにお経を唱える善男善女の群れ。

④戦いの果てに！

仏陀が樹下で瞑想に耽った菩提樹はインドでは既に絶え、仏教徒も少数派だが、スリランカでは仏教徒が7割以上を占め、仏陀涅槃の菩提樹から分枝した樹齢2千年のスリー・マハー菩提樹が健在だ。岩窟に造営され、極才色の涅槃仏を祀るイスラムニヤ精舎や仏陀の右鎖骨を祀った釣鐘型の仏塔トゥパーラーマ・ダーカバにも敬虔な仏教徒の参拝が絶えない。犬が木陰で午垂を貪り、猿が跳び跳ね、髭を伸ばし瘦せこけた行者が座禅を組み、オレンジ色の袈裟の坊さんが瞑想に耽る。素足で歩き、蓮の花びらを供え、経文を唱える人々。苦勞を偲ばせる幾本ものシワを刻んだ黒い顔に、白い歯が目立つ老女とその家族。シンハラ仏教徒にとり聖地で家族と共に祈ることは、現世の満足と来世での幸福の証だ。

3日目は10世紀から12世紀、シンハラ王朝の首都として栄え、タイやビルマから僧が訪れるほどの仏教の一大中心地となったポロンナルワの遺跡へ。パラークラマ・サムドラと呼ばれる巨大な人工貯水池の畔にあり、歴代の王達は都市建設の際、先ず初めに灌漑用貯水池と水路の整備をした。王朝はインドに滅ぼされ、街は焼き払われても、貯水池は変わらず水を湛え、乾いた大地を走る水路は田畑を潤し、同じ地で生き続ける民の食事の支度、水浴び、漁にと、未だに活躍する。

南インドの王朝の圧力の前にアヌラダプーラから首都を南のポロンナルワに移したシンハラ王朝だが、13世紀後半には島の中央部キャンディへと退く。そのキャンディ王国も16世紀初めシナモン貿易独占を狙うポルトガル、更にオランダに続き侵略して来たイギリスに滅ぼされ、1815年にスリランカはイギリスの植民地にされる。

19世紀半ばにコーヒープランテーションが拓かれ、3K労働力として南インドからタミル人が導入され、土着のシンハラ、タミル、ムスリムの間に商業資本家階層ができ、彼らを中核にエリート層が形成され宗教復興運動の形で抵抗運動を開始、独立運動へと発展、1948年に独立を達成する。中心になったのが多数民族シンハラ人を基盤とする仏教復興運動。僧院学校、仏教学校が建設され、「仏法の島」、「アーリア人」というシンハラナショナリズムは独立への道を切り開いたが、排外主義としてタミル人やムスリム、シンハラキリスト教徒にも向けられ、1983年の民族衝突を機に内戦状態となる。多大な犠牲を払い、ようやく内戦が終結した今、如何に民族の融和を計り、豊かな国を実現するのか？

⑤低生産性からの脱出は？

ポロンナルワから1時間余バスが走り、密林の向うに突然巨大な岩山が現れる。5世紀後半、父を殺し王位を奪った王子カシャバが、弟の復讐を恐れ、巨大な岩山の頂上に城を築く。急な階段を登ると中腹の壁に18人の美女。スリランカを代表する芸術として世界に知られる壁画、シーギリヤ・レディ。父王を弔うために描く。壁の中の美女は現在のシンハラ美人に比べかなり色白だ。ここでも美白が美女の条件か？高所恐怖症を押して1200段を登り切ると、遺構だけとなった山頂には孤独の風が吹き、夏草だけが虚しくなびく。

黄金に輝く仏像群と美しい壁画が圧巻の世界遺産タンブラー石窟寺院を観光。スパイスガーデンでヨーロッパを東方へと駆り立てた誘因の一つ、シナモンの木を初体験。コロomboに次ぐ人口40万人、シンハラ王朝最後の都、世界遺産の町キャンディは「スリランカで最もスリランカらしい町」と言われる落ち着いた町。何故か日本製の中古車と中古部品の店が多く、仏陀の歯を安置する仏歯寺に本願寺寄贈の梵鐘があるのも親しみを感じさせる。

中央が吹き抜けのレンガ色の二階建てビルのキャンディ・マーケット。果物売り場は、珍しい南国フルーツが山積みのキャンディ名所の一つだ。店を冷やかしながら歩いていると、いつの間にか得体の知れない親爺がまとわりつき、あれがいい、これを買えと、手を変え品を変え勧める。最後何も買わないと案内料だと、チップを請求された者もいる。観光地ではしつこい押し売りも多い。実入りの少ない、生産性の低い労働が存在するのは失業率も高く、雇用の機会が少ないからだ。幸いスリランカでは教育費は無料、義務教育では制服まで支給され、就学率は高く、識字率も90%をはるかに超える。これを復興に生かすことが期待される。

⑥象糞紙と馬糞紙

4日目の夕方は伝統芸能キャンディアンダンスを楽しむ。年に一度の大祭、ベラヘラ祭の時にも踊る。圧巻は手にした松明を振り回し、口に含んだり、炎を上げる石の上を踊りながら歩くファイアーダンス。古代インドの叙事詩に由来するという。男女ともお腹を出した民族衣装で踊る。とんぼ返りを繰返し激しく踊る若者の脇で、お腹の突き出た中年の男が歌をリード、スローに踊る。下腹を波打たせ踊るふくよかな女もいて、ユーモラス。

バリバリという音で目を覚まし、テロか？とホテルのベランダに出る。中庭は白煙に覆われ、殺虫剤を噴霧している。「文明と自然」の対立のどこでバランスを取るか？サファリをしたいというツアーメンバーの要望で四駆を駆ってジャングルも巡るが、見えたのは野生の象と水牛の群れ、数羽の孔雀だけだった。目の前で前足を鎌代わりに短い草を苅り、鼻で拾い集めて器用に食べ、子象が母象の乳首を吸う姿に感動するが、ケニアや南アフリカでサファリを体験済みの身には動物の種類、量共に迫力不足。アジアとアフリカの「開発」段階の差か？

戦後日本の、貧しい東北の寒村で一升の米を貸し借り、銭湯のない村でお風呂を借りに来て湯船に浸からず、雪の吹き込む洗い場で、背中だけ流して帰る家族。貸す側であったとは言え、少年Kの心は傷んだ。東京「帝国」大学法学部に入学、その思いが爆発、貧困の、格差の、階級のない社会を！と、革命運動に身を投じる。24時間革命のために！世界革命を！だが、時恰かも自民党政権の「所得倍増」政策が奏功、安田講堂攻防戦を最後に「革命運動」は「豊かな国民」の支持を失い、少年Kの夢は敗れる。

翌朝一番に未だ豊かならざるも内戦が終結した国の、象の孤児院へ。象牙の密猟で親を失った子象もいれば、内戦の地雷で片足の先を失った象もいる。その糞を集めて紙を作るという。糞を洗い、晒した繊維を着色、紙に漉く。少年の頃「バフン紙」という、馬糞色の厚紙があって工作の時間には重宝し、その名の由来に少年Kは疑問を持ったが、ようやくその疑問が氷解！日本にもそんな時代があったのだ！

⑦ニューフロンティア、スリランカ

エレファントビレッジのホテルで、象の親子が川で水浴びするのを見ながら、最後のカリーの昼食後、一気に首都コロomboへ。人口2千万人の内百万人が住む大都会。中心市街地には銀行や外資の保険会社等の高層ビルや高層マンションも建つ。フードシティという品揃え豊富で綺麗な食品スーパーやブティック、車のディーラー等の気の利いたお店も並ぶ。高級住宅街には広大な邸宅が立ち並び、貧富の格差が拡大していると、ディディさん。

インド洋に面した高級ホテルにバスを横付け、トイレ休憩。スキューバ、サーフィン等のマリンスポーツも出来るが、この時期は波が荒く、駄目だという。確かに豪快に逆巻く波から岸壁を超えて飛沫が飛ぶ。トイレには掃除の男がいる。用を足し、手動ウォシュレットでお尻を洗い、トイレを出て洗面で手を洗い、ズボンの後ポケットからハンカチを出す間もなく、さっと手拭きの紙を差し出す。やむなく受け取り、50ルピー紙幣を差し出す。

ポルトガルやオランダによって拓かれた海岸近くの街には、2、3階建ての石造りの古い洋館が並び、赤や青のネオンを煌めかせる。そんな旧市街を抜け、蛍飛ぶ未舗装の道を民家訪問。これが最後の観光。庭のバナナで作ったというバナナケーキと手作りクラッカー、紅茶をご馳走になる。ガイドのディディさんのお姉さんの立派な応接間とは比べるべくもなく、粗末な布張りのソファ2脚とそれを補うプラスチックの椅子が2つと小さなブラウン管テレビがあるだけ。ドアを開けると直ぐ応接間になっていて、隣家の子供が我が家のように振る舞っていたのは、とりわけ日本の都市では豊かになると共に失われてしまった、近隣のコミュニケーションが未だ健在なことを窺わせる。

内戦も終結、インフラの整備に手を付け始めたスリランカ。インフラが整うにつれ、教育された安い労働力を求め外資が進出、貧富の格差拡大という軋みを伴いながら、経済開発が進み、中国やインドのように、その昔の日本のように「豊か」になって行くのだろうか？ 国境を越える資本は常にフロンティアを求めざるを得ず、それを拒むには鎖国する以外にない。ITは国境の壁を簡単に打ち壊す。世界は均質化に向かうが、一直線には進まない。EUの経済危機がそれを物語る。ドイツとギリシャの差でさえ乗り越えて統合出来ないのでは、日本とスリランカの差は今現在、如何ともしがたい。しかし、資本は自己増殖と利潤の最大化を求め、絶えずフロンティアを目指す。グローバルキャピタリズムは不均等に発展しながらも、いずれ世界経済を一つに包摂する。世界経済が一つになる時、国境の壁も取り払われ、階級もない一つの社会になる。「能力に応じて働き、働きに応じて取る社会」から、「能力に応じて働き、必要に応じて取る社会」へ、世界は変わる！「人が人を食う社会」から「他人の喜びが自分の喜びになる社会」へ、人間も変わる！エアスリランカ機が、日本の大地に着輪した衝撃で、「世界革命の夢」は覚める！（完）

◎終わりに

久し振りに94年入寮の諸君と一杯やり、西沢君には三鷹クラブの口座に入会金（終身会費）1万円を振り込んで、会員になって貰った。あの頃は民主党も結党して間もない頃で、夢があった。寮生と語らって、同じ団塊の世代の鳩山元首相や菅前総理に五月祭や駒場祭で夢を語って頂いた。寮後輩の舛添元厚生大臣には寮まで足を運んで頂き、寮生に熱い思いを語って頂いた。同窓の加藤登紀子さんには寮祭で歌って頂いた。

最近まで寮祭とまではいかないが、寮生が音楽祭や体育祭を企画したり、駒場祭でエスニック料理の屋台を大がかりに出し、予算オーバーでポケットマネーで補ったりした。

今年の七夕の日も寮で交換留学生の送別会があり、三鷹クラブから寿司桶持参で参加、資金不足でアルコールなしとかで、金を渡し酒屋に走らせた。ビンゴ、花火、ダンスの後、60人ほど引き連れ華屋与兵衛で二次会兼幹事慰労会をしたが、ただ飲むだけの感じで、細工が足りない。企画する力が劣化しているのではないかと心配してしまう。まず集い、胸襟を開いて議論を深め、何事かを共にし、お互いの理解と交流の輪を広げて欲しい。再見！